



日本甲虫学会 Coleopterological Society of Japan

HP: <http://kochugakkai.sakura.ne.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/coleopterology>

Twitter 日本語アカウント: <https://twitter.com/kochugakkai>

英語アカウント: https://twitter.com/Coleopt_Soc_Jpn

会員限定ページ: <http://kochugakkai.sakura.ne.jp/members-only.html>

(ユーザー名:、パスワードはさやばね和文誌さやばね 41 号(2021 年 3 月 25 日発行)およびニュースレターのメール配信版 39~52 号に掲載しています。※2023 年 2 月から変更になります)

日本甲虫学会第 12 回大会総会 会長挨拶

大原昌宏

皆さま、第 12 回日本甲虫学会、大会にご参加いただき誠にありがとうございます。

日本甲虫学会第 12 回総会を開始させていただきます。

私、学会長を仰せつかっております、北海道大学の^{大原昌宏}と申します。総会の前に、簡単にご挨拶をさせていただきます。

日本甲虫学会の学会長は、1 期 2 年間で 2 期までとなっております。私は 2 期、計 4 年間の学会長をさせていただきました。会長になった 2019 年は、まだコロナ禍が始まる前でしたので、対面で九州大学において第 10 回大会を開催させていただきました。当時、私は大会前に韓国の仁川に出張しており、前日の夜に仁川から福岡へ移動したことを思い出します。当時は国内外の出張を頻繁にしておりましたが、いまは外出も気軽にはできないご時世ですので、コロナ禍で改めて、世界が変わってしまったと感じます。

2020 年 2 月からコロナウイルス、^{covid-19}が札幌から始まり、外出がままならなくなりました。年末に予定されていた 2020 年の愛媛大学での大会は、当初中止という判断でしたが、オンラインでの形式が可能ということで、若手昆虫談話会と共催という形で、初めての ZOOM による大会が開かれました。この年の大会は、実際は報告会という扱いになりましたので、大会としてはカウントされておりません。翌年の 2021 年の大会は、大学院生などスタッフが多くの研究室ということで、北海道大学と若手昆虫談話会が共同で、第 11 回の大会をオンラインで開催いたしました。

さて、今年の大会は東京明星大学を会場に、対面で第 12 回大会を開く予定で、大会事務局の方々にはご準備をいただいております。折悪しく、コロナの感染が広がり、事務局の方々には苦渋の決断だったとお察しいたしますが、対面は中止、オンラインでの開催となりました。誠に残念ではありましたが、これまでのご準備と緊急のオンライン対応へと変更をされ、多大な業務をこなしていただいた、野村周平 大会長、会場ホストを引き受けていただいた明星大学の和田薫さま、そして大会事務局のみなさまに、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

学会全般の状況を、簡単にご報告させていただきます。

多くの昆虫関係の学会が、会員数を減らしている中、日本甲虫学会は、ほぼ現状の会員数 760 名を維持しており、これは高齢の会員の方が抜かれる中、同数以上の若い会員の方が入会してくださっているということです。学会の若返りにも是非ともこのまま会員維持、また会員増を目指していただければと思います。

過去 2 年は欧文誌「Elytra new series」はややページ数を減らしておりますが、質の高い論文が出版になっており、ご投稿いただいた会員の皆様、また大変な編集の作業を引き受けてくださっている編集長の吉武啓さま、新里達也さま、そして編集幹事、委員のみなさまに厚くお礼申し上げます。

和文誌「さやばねニューシリーズ」は、過去 4 年間着々とページ数を増やし、非常に活発な誌面となっております。ひとえに、委員長^{の保科さま}と編集委員のみなさまの努力の賜物と思います。ありがとうございます。

このあとの総会でも報告がございますが、執行部、各種委員会も多岐にわたる活動を、このコロナ禍の中で行ってくださっております。後ほどご報告を受けていただければと存じます。この

場を借りて、これら幹事、委員長、委員のみなさまの貢献にお礼を申し上げます。

今年の年末で、私の会長の任期は終了となります。4年前の会長に就任した時に3つのことを課題としてあげさせていただきました（さやばね ニューシリーズ, 33: 68）。1つ目は「出版物の電子化への準備」です。これはすでに出版論文は全て pdf 化されており、いつでも電子化できる状態になっていると思います。あとは、会員のみなさんが紙媒体で受けとる形態をより好んでおられる状況があるように思いますので、会計の状況が悪化しない限り、紙媒体での印刷物を出版物として受け取る形を維持する現状が良いかと思えます。いずれにせよ、アーカイブとしての電子化の準備は確実に整ってきたと思います。2つ目は、「大会のあり方」です。これはコロナ禍の状況で、オンラインという電子化の方法があらわれ、いやが応にも使用をせざる状況となり、4年前とは全く違った状況になりました。この「大会のあり方」の課題は、別のフェーズに入ったということで、継続して検討すべき新たな課題になったと思います。3つ目は、「普及事業と社会貢献、そして次世代育成」です。過去3年間はコロナ禍のため、学会としての普及事業は開催できませんでした。この点は非常に残念ですが、本日のシンポジウム「昆虫研究の魅力を通して科学する楽しみを知ろう ～甲虫学から始める教育アウトリーチ活動～：丸山宗利・福富宏和・松村洋子・柿添翔太郎」の講演内容にもあったように、新たな形の普及事業が若手のみなさんによって活発に行われてきていますので、おおいに将来に期待がもて、学会としてもこれからの大きな貢献ができる課題かと思えます。

4年間の会長としては、コロナ禍による点もありますが、十分な貢献ができず力不足であったことを申し訳なく思います。4年間、幹事、委員長をはじめとした会員のみなさまにいろいろと助けていただきました。ありがとうございました。来年度からは、東京大学の久保田耕平先生が新会長となり、新しい体制となります。ますますの日本甲虫学会の発展を祈念いたします。

最後に、本年も、みなさまに残念なご報告をしなければなりません。11月11日には甲虫ではホソカタムシ科を専門とされていた青木淳一先生が、12月4日にはコメツキムシ科をご専門とされていた大平仁夫先生が、ご逝去されました。謹んでお冥福をお祈りいたします。

2023 年例会の日程

東京（国立科学博物館附属自然教育園を予定）

<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/event/tokyo/tokyo.html>

・新型コロナウイルス感染症の状況・自然教育園の利用可否に応じて開催可否と形式を決定。

名古屋（三重県環境学習情報センター）

<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/event/nagoya/nagoya.html>

・第1回例会：3月12日（日）午後 久松定智「日本のケンキスイの仲間たち」 他

・第2回例会：2023年秋に開催予定

大阪（大阪市立自然史博物館）

<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/event/osaka/osaka.html>

・冬季例会：1月15日（日）渡部晃平「日本産ツブゲンゴロウ属を対象とした最近の研究動向」（講師はオンライン）

・春季例会：3月19日（日）池田大「ジョウカイモドキについて」

・秋季例会：9月23日（土・祝）・年末例会：12月9日（土）ともに演者未定

調査観察例会（宮崎県綾ユネスコエコパーク照葉樹林）【※宿舎は「あゆのお宿 山水」です】

<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/event/saisyu/aya2023.html>

・5月13日（土）・14日（日）※申込み締切：2023年2月末日（厳守）

和文誌さやばね 48号遅延のお知らせ

コロナの影響により、和文誌さやばね 48号の印刷が遅れています。新年1月中となることをどうかご了承くださいませようお願い申し上げます。

日本甲虫学会 ニュースレター 第53号

2022年12月22日発行 ※本ニュースレターは主にHPの更新履歴に基づき、プレーンテキストにて不定期でメール配信しています。以後の配信停止ご希望の方はご連絡ください。過去の更新履歴も、PDFでご覧いただけます。

<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/newsletter/newsletter.html>

（web担当：初宿・山本 webmaster@kochugakkai.sakura.ne.jp）